

【審判長注意事項】

2023年2月1日
八王子市軟式野球連盟

1. 試合規則は、大会規則等及びグラウンドルールで、特に決められた以外は本年度の公認野球規則による。
2. 選手の交代は監督が「タイム」をかけ球審に申し出ること。特に2名以上の交代には注意すること。
3. 抗議のできるものは、監督または主将と当該プレーヤーのうち1名とする。
4. 試合球の交換は、審判員の認めたときのみに限る。
5. 試合はスピーディーに行い、出来るだけ無駄な時間を省くこと。特に作為的なタイムは認めない。
6. 攻守交代はかけ足でスピーディーに行うこと。監督、コーチが投手のもとへ行き来する場合も、小走りでスピーディー行うこと。
7. 打者は速やかにバッタースボックスに入り球審への挨拶は無用である。また、バッタースボックス内でベンチ等からのサインを見ること。尚、みだりに打者席を外すことは禁止する。【野球規則 5.04b】
8. 2回目以降の投手の投球練習は3球迄とし、投手交代の際の投球数は公式ルール【野球規則 5.07b】により、1分間・8球迄とする。
9. 次打者は、自チーム側の次打者席を使用し打席に着く際、不用のバットをグラウンドに置かぬこと。
10. 次打者席では、投手が投球姿勢に入った素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。
11. 投手が投球動作を開始したら投手の動揺を誘うような声を発してはならない。
12. 塁上の走者、あるいはコーチボックスやベンチから守備側のサインを盗み、それを打者に伝達することを禁止する。また、打者が投げ終わった球種を次打者に知らせることを禁止する。
13. 投手は必ずプレートについて、捕手のサインを見ること。
14. 投球を受けた捕手は、その場から速やかに、投手に返球すること。また、捕手からの返球を受けた投手は、速やかに投手板に触れて投球姿勢をとること。
15. 監督またはコーチ等が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。なおタイブレーク方式になった場合は1イニングに1回行くことができる。
16. タイムの回数制限
 - (1) 守備側のタイム…捕手または内野手が1試合に投手の所に行ける回数は、3回以内とする。
なお、タイブレーク方式になった場合は、1イニングに1回行くことができる。
野手が(捕手も含む)投手のところへ行ったら、そこへ監督またはコーチ等が行けば、双方1回として数える。逆の場合も同様とするが投手交代の場合は、監督またはコーチの回数には含まない。
 - (2) 攻撃側のタイム…1試合に3回以内とする。なお、タイブレーク方式になった場合は、1イニングに1回行くことができる。
17. 試合中、スパイクの紐を意図的に結び直すためのタイムは認めない。
18. ボール回しは禁止する。
19. 攻守交代時に最後のボール保持者は、必ず投手板にボールを置いてベンチに戻る。
20. ボール・ストライク・アウト・セーフ・フェア・ファウルボール及びハーフスイング等判定に対する抗議は許されない。【野球規則 8.02a】
21. 守備側からのタイムの要求で、試合が停止されたときは、投手は捕手を相手に投球練習することは許されない。
22. [素振りリング]並びに[鉄製パイプ]等の球場への持ち込を禁止する。
23. 投手が手首にリストバンド、サポーター等を使用することを禁止する。(手首の負傷で包帯などを巻くことは許される)
24. プレーヤーが塁上で、腰を下ろすことを禁止する。
25. 足を高く上げてのスライディング及び空タッグを禁止する。現実これが妨害となった場合は、ペナルティを適する。
26. 試合のスピード化をはかるため、コーティシーランナーを認める。(当該プレーヤー9人の打順の前任者。但し、投手及び捕手を除く)
27. 打者が2塁打を打ち、打撃用手袋から走塁用手袋に変えるためのタイムは認めない。ただし、レッグガードとエルボーガードを外すときのタイムは認めるが、速やかに行うこと。
28. 前進守備時の野手の位置について
故意に打者を惑わすことと、野手の安全を考慮して塁間の半分を目安として、投手がリリースするまでその位置に留まること。
29. 守備側の監督が、打者を故意四球とする意思を審判員に伝える場合は、必ず「タイム」を要求すること。
30. 打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けた時には、球審は攻撃側の監督と協議し臨時代走の処置を行うことができる。